

科目名	総合演習Ⅱ (SC)
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 78 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。 2. 自らのテーマを見つけだすことができる。 3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。 4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照) 6 セメスター ・総合演習の意義を理解と目的 ・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる ・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する 7 セメスター ・自己のテーマを探す ・自己のテーマを見つけ出す ・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる ・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。 ・研究倫理について学ぶ ・テーマをまとめ、発表する 8 セメスター ・発表の形式にまとめる ・卒業研究発表会の準備 ・卒業研究発表会にて発表する *詳細は担当指導教員の Web シラバス参照
アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	Google Classroom を通して研究経過を報告したり、レポートや資料を共有したりする。
評価方法	<こども教育福祉学科> Ⅰ：授業への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、レジュメ等) 50%、レポート 50% Ⅱ：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度) 40%、最終提出物 60% ・最終提出物はルーブリック(WebClass に掲載)を用いて評価する。

課題に対する フィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学修：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学修：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学修はそれぞれで実施すること					
オープンエデュケーションの活用	* 担当指導教員の Web シラバス参照					
オフィスアワー	* 担当指導教員の Web シラバス参照					
実務経験に関する記述	* 担当指導教員の Web シラバス参照					
メディア授業の実施について	基本的にはなし。 必要に応じて実施する。					

科目名	保育実践演習
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育者を目指すためのこれまでの学修の総括を行う。保育者の資質として、①使命感（倫理）や愛情、②社会性や対人関係、③乳幼児理解やマネジメント、④保育内容等の援助・指導力に関する自己評価を行い、課題を明らかにし、解決のための具体的方法を考案する。
到達目標	1. 保育者を目指す者としての自己の課題を明らかにし、課題解決に向けての方法を探る。 2. 保育職の意義や役割を確認する。 3. クラス運営について理解する。 4. 保育者や保護者との連携・協力のために必要なスキル・姿勢について理解する。 5. 援助・指導力やコミュニケーション能力向上のための方法について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員：杉山沙旺美・太田雅子> 第1回：杉山 オリエンテーション 実習等を通しての自己評価と今後の課題を明らかにする 第2回：杉山 保育における記録と要録 第3回：杉山 保育者の専門性とは 第4回：杉山 保育者の専門性（関わり） 第5回：杉山 子どもの探究を探究する①附属こども園での保育観察 第6回：杉山 子どもの探究を探究する②ドキュメンテーションの共有 第7回：杉山 子どものまなざし・保育者の思い①《ゲストスピーカー：宮里暁美先生》 第8回：杉山 子どものまなざし・保育者の思い②《ゲストスピーカー：宮里暁美先生》 第9回：太田・杉山 チームの質を高める関わりの技術①自分の意見を伝える 第10回：太田・杉山 チームの質を高める関わりの技術②互いの強み弱みを生かした関わり 第11回：杉山 専門職にはふさわしくない関わりとは 第12回：杉山 専門職にはふさわしくない関わりをなくす環境づくり 第13回：杉山 保育者として求められること①《ゲストスピーカー：安藤香澄先生》 第14回：杉山 保育者として求められること②《ゲストスピーカー：鈴木まき子先生》 第15回：太田・杉山 まとめ 保育者になることへの期待と希望 ※定期試験は実施しない
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、フィールドワークを取り入れて実施します。

授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業態度（リアクションペーパー・課題）：30％ 子育て広場のプランと実践：30％ レポート：40％ レポートについてループリックを用いて評価を行う。ループリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーについては次回授業の中で取り上げフィードバックをする。 課題・レポートについては添削して返却する。				
指定図書	宮里暁美（編）『保育がグングンおもしろくなる記録・要録書き方ガイド』株式会社メイト（ISBN：9784896224368）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	下記参照。その他授業内で提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
改訂 保育者の関わりの理論と実践：保育の専門性に基づいて	高山静子	郁洋舎	2000	9784910467016	1
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	1
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示します。関連するサイトや文献を用いて原則として、40 分程度の事前・事後学修を行ってください。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	杉山沙旺美（2609 研究室）メール：saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園、保育所、認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教職実践演習（幼・小）
科目責任者	竹本 石樹
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	授業は大きく 2 つに分けることができる。 第 1 は、大学における演習である。児童理解、学級経営、教科・領域指導等に関する内容を取り上げ、事例研究、ロール・プレイ、模擬授業等を行うことによって、実践的な能力を確かなものにしていくことを目的とする。 第 2 は、教育現場、関連機関における演習である。教育に対する使命感、責任感についての認識を深めるとともに、子どもとのコミュニケーション能力に加え、社会人としての対人関係能力をはぐくんでいくことを目的とする。
到達目標	大学の授業で学んだ学校知と教育実習等で得られた実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員として資質を構築していく。 教師として必要な基礎的資質の形成に関して、以下の 4 項目について確認する。 ①教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること ②社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること ③幼児・児童理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けていること ④領域・教科等の指導力の基礎を形成していること
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>竹本、飯田、福重、渡邊 *学修進度やその時々の保育・教育動向などを踏まえて柔軟に学修内容を変更したり、授業の順番を入れ替えたりする。その場合は、事前に連絡する。 <自己分析> 第 1 回 個人の振り返り「理想とする教師像・子供像」：【竹本／（渡邊）】 ・講義：教師の専門性発達とリフレクション ・記述：WebClass 教職カルテに基づくここまでの学修・実習のふり振り返り 第 2 回 対話による「理想とする教師像・子供像」の再構築：【竹本／（渡邊）】 ・対話：アドバイスを生かした自己調整 ・記述：「理想とする教師像・子供像」の質的改善 <教育における不易> 第 3 回 教師の仕事と心得：【中道：元小学校校長】 ・講義と演習：教師の仕事を深く捉える 第 4 回 指導技術【福重】 ・講義と演習：板書の技術、発問の技術、ノート指導の技術 等 <教育における流行> 第 5 回 Well-being と教育・保育【飯田】 ・講義と演習：これからの教育の根幹を捉える 第 6 回 ESD と教育・保育【渡邊】 ・講義と演習：持続可能な社会の創り手を育成する教育・保育 第 7 回 STEAM 教育、IB の広がり【竹本】 ・講義と演習：STEAM 教育の特徴と幼稚園、小学校での取組 第 8 回 DX と ICT【竹本】 ・講義と演習：幼稚園、小学校における ICT 活用 <教育・保育の現場のリアル知る>【竹本と関係機関】 *第 9 回から 13 回は、講義の後、学生とのディスカッションを基本とする。 *学生は、ディスカッションできるように事前準備を行う。

	第9回 外国にルーツがある子どもの実態とその教育環境、及びその支援【浜松市教育委員会教育支援課外国人支援グループ】 第10回 発達支援を必要とする子どもの実態とその教育環境、及びその支援【浜松市教育委員会教育支援課発達支援グループ】 第11回 児童虐待等の現状と支援を必要とする子どもへのアプローチ【浜松市児童相談所】 第12回 学び続ける教師【浜松市教育センター】 第13回 学校現場の実態とそこで輝く教師【浜松市校長会会長】 <保育・教育の専門家としてのスタート>【竹本】 第14回「理想とする教師像・子供像」の再構成 講義：これまでの授業の振り返り 記述：「理想とする教師像・子供像」の質的改善 第15回 まとめ—教師になることへの期待と希望【竹本】 記述：レポート				
アクティブラーニング	グループでのディスカッション、実践現場ゲストスピーカー等とのディスカッション等を行う。				
授業内の ICT 活用	Google for Education などを活用した意見交換、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。				
評価方法	学習への積極性・参加態度など：30% リアクションペーパーや授業・保育構想などの課題：40% 最終レポート：30% 以上を目安に総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはループリックを用いて評価する。ループリックの内容は授業中に提示する。				
指定図書	各回の授業ごとに必要な資料を提供する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	各回の授業ごとに必要な資料を提供する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	竹本石樹 (2714 研究室) メール：iwaki-t@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」「幼稚園教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	情報活用指導法					
科目責任者	竹本 石樹					
単位数他	1 単位（15 時間） 選択 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解する。授業における児童生徒および教員による情報通信技術活用の他、授業の準備、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用を取り上げる。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけについて解説する。本科目では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と、学生自身が各種情報通信技術機器、環境を活用し、体験的に学修する機会を設けることを基本とする。アクティブラーニングの科目、ICT を活用した双方向型授業の科目である。					
到達目標	(1) 教育現場における ICT 活用の意義や理論について理解している。 (2) 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。 (3) 情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成する意義および育成方法を身につけている。					
授業計画	第 1 回：オリエンテーション 現代社会における ICT 活用の意義と方法 第 2 回：教育の情報化の概観とカリキュラム・マネジメント 第 3 回：教師の ICT 活用指導力向上と小学校・特別支援・幼児教育における ICT の効果的な活用（実物投影機、コンテンツ、遠隔授業など） 第 4 回：個別最適な学びと対話的な学びを深める ICT を活用した指導法① 第 5 回：個別最適な学びと対話的な学びを深める ICT を活用した指導法② 第 6 回：児童生徒の情報活用能力の育成①（探究を支えるリテラシー） 第 7 回：児童生徒の情報活用能力の育成②（プログラミング、情報モラル、情報セキュリティ） 第 8 回：校務推進における ICT 活用の概要と教育の情報化を支えるもの（専門家の活用、学校図書館） 定期試験					
アクティブラーニング	本授業では、Google for Education を積極的に活用し、学生が発表する場面、意見交換をする場面を設けている。このような活動を通して本授業内容に関する理解を深めていく。このようなことから、本授業はアクティブラーニングの科目であると言える。					
授業内の ICT 活用	本授業では、Google が教育機関向けに提供しているクラウド型のオンライン学習ツールである Google for Education を積極的に活用する。					
評価方法	リアクションペーパー（25%）、授業内の課題（25%）、試験（50%）					
課題に対するフィードバック	授業ごとのリアクションペーパー及び授業内の課題から学生の疑問を把握し、次の授業の中でフィードバックを行う。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
ICT 活用の理論と実践	稲垣 忠	北大路書房	2000	9784762831805	1	
参考図書	参考書・参考資料等 ・「小学校 学習指導要領（平成 29 年告示）」（文部科学省，2017） ・「教育の情報化に関する手引-追補版-」（文部科学省，2020） ・「小学校プログラミング教育の手引（第三版）」（文部科学省，2020）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接受け付けます。もしくは竹本研究室 (2714) を訪問してください。
実務経験に関する記述	公立学校教諭、国立大学法人静岡大学附属浜松小学校教諭、浜松市教育委員会指導課指導主事、浜松市教育委員会教育総務課指導主事に従事してきた。そして、以上の経験を通して、これからの教育の方向性やそのための具体的な指導法等に関する知見を獲得してきた。本授業は、これらの知見を生かし、学生の実践的指導力が発達するように構成している。
メディア授業の実施について	基本的に対面授業を行う。

科目名	教育実習指導 (22SC・幼)
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 5, 6, 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	幼稚園、小学校教諭への理解を深め、実習の意義や目的、内容、方法を知り、望ましい教育実習が行えるようにする。また、幼稚園、小学校教育の概要を学修し、教育実習に臨むための基礎的な知識・技術・態度を育む。事前指導では日誌・指導計画の書き方、模擬保育・模擬授業などに取り組み、事後指導ではそれぞれの体験を言語化し、共有し、さらに学びを深めていく。
到達目標	1. 教育実習の意義を理解し、実習に対する心構えを作る。 2. 実習日誌と指導計画の書き方を学び、実習時の学びの視点を深める。 3. 実習体験をもとに実習成果や課題をまとめることができる。
授業計画	<担当教員名>太田雅子、渡邊拓真、杉山沙旺美、福重浩之、飯田真也、竹本石樹 <授業内容・テーマ等> 1. 事前指導として学内において講義や視聴覚教材等を用いた演習を行い、また実習校において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。 (1) 教育実習の意義・目的・内容の理解 (2) 教育実習の方法の理解 (3) 教育実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。 (4) 教育実習課題の明確化 (5) 部分実習・責任実習の準備、指導 (6) 実習記録の意義・方法の理解 (7) 実習施設の理解 2. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させ、保育者志望学生の資質、能力の向上を図る。併せて、教育内容の理解と深化を図る。 <授業計画と担当者> 【事前指導】 第1回(杉山):オリエンテーション、事前訪問マナー、手続き等 第2回(杉山):プレ実習と保育者の配慮点について(クリストファーこども園) 第3回(杉山・渡邊):クリストファーこども園におけるプレ実習 第4回(杉山):実習日誌について 第5回(渡邊・杉山):指導計画について 第6回(渡邊):3・4・5歳児の発達の特徴 第7回(杉山):実習課題・ループリックの作成 第8回(太田・渡邊・杉山):模擬保育①(計画) 第9回(太田・渡邊・杉山):模擬保育②(実践) 第10回(太田・渡邊・杉山):模擬保育③(振り返り) 第11回(全員):実習直前指導 【事後指導】 第12回(杉山・渡邊):実習の振り返り(幼稚園教諭の役割) 第13回(杉山・渡邊):実習の振り返り(グループディスカッション) 第14回(全員):3年生に向けての実習報告会① 第15回(全員):3年生に向けての実習報告会②・まとめ
アクティブラーニング	遊び・活動の実践(模擬保育・発表)や附属こども園でのプレ実習を実施します。その他、ディスカッションやプレゼンテーションを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用した資料の閲覧や課題の提示、グループ発表資料の作成等を行います。

評価方法	課題（20%）、授業への取り組み（20%）、レポート（20%）、実習報告会（20%）、模擬授業の教材研究・指導案（20%） 計 100% レポートはルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。				
課題に対するフィードバック	記録や課題については添削のうえ返却し、模擬保育の際には実践後にフィードバックをする。また、実習報告会では教員からの講評をする。				
指定図書	下記参照。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	1
幼稚園教育要領解説 平成30年3月		フレーベル館 フレーベル館	240	9784577814475	1
これからの時代の保育者養成・実習ガイド	大豆生田 啓友	中央法規出版	1800	9784805882221	1
参考図書	授業内で適宜提示します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	【事前学修】実習ノートへのオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容に取り組む。授業内で提示した課題を各自で進めていきます。 【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。 <それぞれの目安時間は約 40 分>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	杉山沙旺美（2609 研究室） メール：saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園教諭」「保育士」「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育実習（幼・小）（22SC・幼）				
科目責任者	福重 浩之				
単位数他	4 単位（120 時間） 選択 5, 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	幼稚園・認定こども園または小学校インターンシップⅠⅡⅢで実習した小学校で、4 週間の実習を行う。実習の主な内容は、幼稚園、①観察、②保育参加・補助、③部分実習、④半日・全日実習を体験する。小学校では、①見学・観察、②教育参加・補助、③教科等学習指導（授業研究を含む。国語・算数・理科・社会・生活・道徳は必ず、その他の音楽・図工・体育・家庭・総合的な学習の時間・英語（外国語活動）などはその中から 1～2 時間程度は担当する）、④全日指導。小学校インターンシップⅠⅡⅢから連続するため、本科目では③④が中心となる。				
到達目標	1. 幼稚園、小学校教諭の仕事全般を理解し、その補助ができる。 2. 園児・児童とのかかわりや観察を通して、園児・児童の思いや願い、発達や個性を理解し、記録できる。 3. 園児・児童の実態に即した指導計画案（略案・細案）を立て、実践・評価できる。				
授業計画	<担当教員名> 福重浩之、鈴木光男、飯田真也、竹本石樹、太田雅子、渡邊拓真、杉山沙旺美 <授業内容・テーマ等> 教育実習の主な内容（段階）は、①見学・観察、②保育・教育参加・補助、③部分実習／部分指導、④全日実習／全日指導を体験する。この実習では幼稚園、小学校における教育の実践を体験することにより、園児、児童に対する理解を深めるとともに、教育の理論と実践の関係を具体的に理解し、習得した知識・技能を総合的に実践しうる能力と教育者にふさわしい態度を身につけることを目的とする。				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	実習校からの評価（40%） 実習日誌・指導案等（30%） 学生と教員との面談における振り返り（30%） 計 100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。				
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行う。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	1
幼稚園教育要領解説 平成30年3月		フレーベル館 フレーベル館	240	9784577814475	1
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	【事前学修】 各学年の子どもの発達を理解、実践にあたっての教材研究を行う。また、指導計画案／学習指導案は園児、児童の実態を捉え、十分な教材研究のもと作成する。授業研究は細案、その他は本時の学習に関する目標や学習過程のみの略案（60分）。 【事後学修】 実習終了後は、幼稚園、小学校教諭の仕事・授業の進め方や園児、児童との関わりについて実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにする（60分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	福重浩之（2607 研究室） メール：hiroyuki-f@seirei.ac.jp 杉山沙旺美（2609 研究室） メール：saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「保育士」「幼稚園教諭」「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	小学校インターンシップⅢ					
科目責任者	福重 浩之					
単位数他	1 単位（45 時間） 選択 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	この授業では、インターンシップ実習Ⅱ同様に、開講期間中に合計で 30 時間以上実際にその教育現場を訪問し、教科・領域の学習や特別活動など主には授業場面で児童と関わり、授業の進め方を実践的に理解することを目的とする。					
到達目標	インターンシップ実習Ⅰ、Ⅱ、教育実習を踏まえ、同じ小学校にて実習し、主には教科・領域の授業内での児童の学習指導に関わり、教師の役割を知ると共に基本的な授業の進め方を理解し、現職教師としての資質能力につなげる。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
授業計画	<担当教員名>飯田真也、福重浩之、竹本石樹 <授業内容・テーマ等> 【事前指導】 目標と計画の設定 授業の進め方・実習内容・事前訪問等の確認、実習計画・実習の目標設定 ※受け入れ先小学校への事前訪問は 10 月初旬までに済ませ、実習目標や計画を小学校に提出する。 ※その後、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 【実習の進め方】 1. 学生はインターンシップ実習ⅠⅡと同じ小学校で実習する曜日や時間、配当学年などを決める。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う。 3. 実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 4. 実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 【実習内容】 ①Ⅰ・Ⅱから引き続き授業内外の活動を通して、児童への関わりを深める。 ②つまづきのある児童や特別な支援を必要とする児童への支援・指導のあり方を知り、授業内で関わる。 ・教師の支援・指導上のポイントの把握 など ③授業や特別活動を通して、児童へのかかわり方を理解し、実践する。 ・運動会や各種行事での指導のあり方の把握 ・各授業の学習過程の違いやポイントの理解など 【事中指導】（11 月・12 月・1 月に 1 時間ずつ 3 回実施） インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 【事後指導】（1 月） 実習の振り返り（発表と共有）					
アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
授業内の ICT 活用	授業時に指導案の作成や実践報告時に使用する。					
評価方法	実習先小学校からの評価（40%）、実習ノート（30%）、学生と教員との面談における振り返り（30%） 計 100%					
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。					
指定図書	指定なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

参考図書	授業中適宜資料を提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する。 事後学習その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する。(目安時間 40 分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール: hiroyuki-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際バカロレア教育方法論					
科目責任者	Morten J. Vatn					
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	PYP の教育アプローチ（方法）を理解する。また、教科横断的なテーマ（TT）、中心的アイディア（CI）、探究の流れ（LOI）、探究プログラム（POI）、探究の単元（UOI）をどのように作成し、評価するかを学ぶ。さらに、PYP のエキシビション（PYPX）の位置付けを理解する。					
到達目標	1. PYP の学校で行われている概念型探究学習について、より深く理解する。 2. 探究のプログラム（POI）と探究の単元（UOI）の作成・活用に関する能力を身につける。 3. 中心的アイディア（CI）、探究の流れ（LOI）、特定概念（SC）、付加概念（AC）、学習者像が POI の内外でどのように統合され、発展していくかを検討する。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン 第 1・2 回： 探究する児童をサポートする教師の役割 ヴァテン 第 3・4 回：探究の単元のデザイン：中心的アイディア（CI）を作成する。 ヴァテン 第 5・6 回： 探究の単元プランナー（UOI）を通して協働設計と逆向き設計を再検討する。 ヴァテン 第 7・8 回： 概念的理解の発達を促すストラテジーの活用法：ミニ単元の実戦① ヴァテン 第 9・10 回： 概念的理解の発達を促すストラテジーの活用法：ミニ単元の実戦②。 ヴァテン 第 11・12 回： 概念的理解の発達を促すストラテジーの活用法：ミニ単元の実戦③。 ヴァテン 第 13・14 回： PYPX（エキシビション）の実践と評価 ヴァテン 第 15 回：まとめと振り返り ヴァテン					
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、グループワーク、振り返りを主体的・積極的に進行する。					
授業内の ICT 活用	ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。					
評価方法	授業への取り組み：45％ 課題提出物（振り返りレポート、学習の証拠を含む）：55％					
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスをを行う。					
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書						

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学習	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、様々な資料を用いて原則として、40 分程度の事前・事後学習すること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	モーテン・ヴァテン (5706 研究室) 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (morten@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校・インターナショナルスクールでの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関しては TV 会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	国際バカロレア教育学習アセスメント					
科目責任者	Morten J. Vatn					
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	PYP における評価の目的、効果的な評価の特徴、また、P Y P 校でどのように統合的な評価の文化を育めるかについて学びます。そして、評価する能力のある教師になるために、フィードバックや多数のストラテジーを活用して自分の学習を調整し、改善します。さらに、PYP における評価はどのように行われるか、つまり学習のモニタリング、記録、測定や報告をどのように支えることができるかを理解します。					
到達目標	1. 「学習のための評価」「学習の評価」「学習としての評価」の違いを理解し、それぞれの目的に応じた評価方法を身につける。 2. PYP の教師として学習のモニタリング、記録、測定や報告の実践を理解する。 3. IB の評価基準とその厳格な仕組みを理解し、フィードバックとフィードフォワードの作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン 第 1・2 回：学習評価の役割と方法の理解 ヴァテン 第 3・4 回：IB の評価基準とフィードバック・フィードフォワードの実践 ヴァテン、ゲストスピーカー（サガン） 第 5・6 回：評価する能力のある教師 ヴァテン 第 7・8 回：IQ とは違う知性、感情知能（EI）と文化知能（CI）の評価 ヴァテン 第 9・10 回：個別最適化された評価 ヴァテン 第 11・12 回：PYPX（PYP エクシビション）の評価① - 実践編 ヴァテン 第 13・14 回：PYPX（PYP エクシビション）の評価② - 応用編 ヴァテン、ゲストスピーカー（サガン） 第 15 回：まとめと振り返り ヴァテン					
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、グループワーク、振り返りを主体的・積極的に進行する。					
授業内の ICT 活用	ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。					
評価方法	授業への取り組み：45％ 課題提出物（振り返りレポート、学習の証拠を含む）：55％					
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。					
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書						

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学習	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、様々な資料を用いて原則として、40 分程度の事前・事後学習すること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	モーテン・ヴァテン (5706 研究室) 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (morten@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校・インターナショナルスクールでの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関しては TV 会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	国際バカロレア教育総合演習					
科目責任者	Morten J. Vatn					
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	IBEC コース 1 ～ 4 を踏まえて、PYP 教員の実力を想定した実習を行う。また、実践を通して、協働設計と反省的実践家のスキルを高め、IB における指導と学習の意味を深める。					
到達目標	1. IB/PYP の「学習と指導」の境界を設定し、IB/PYP 認定校における実践内容（POI・UOI・ファシリテーション・深い学び）を理解する。 2. 聖隷クリストファー小学校・子ども園での現場実習を通じて、「教師の役割」や学習者中心の探究学習の進め方を観察・分析し、プロセスジャーナルを活用して実践的な指導力を身につける。 3. 実習の経験を SWAP 分析やリポートを通じて振り返り、探究型学習やファシリテーションの改善点を考察し、反省的実践家としての能力を身につける。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> モーテン・ヴァテン、太田雅子、二宮貴之、鈴木光男 第 1・2 回：オリエンテーション、IB/PYP の学習と指導の境界を設定する。IB/PYP 認定校実践の内容について検討する。 ヴァテン、二宮 第 3・4 回：実践の事前準備 ― 聖隷クリストファー小学校・子ども園における「教師の役割」「POI・UOI」「ファシリテーション」「深い学び」の活用について考察する。 ヴァテン、二宮 第 5～14 回：実践 I（現場実習）― 聖隷クリストファー小学校・子ども園（IB 認定校）での実習を行う（実習の過程をプロセスジャーナルに記録し、提出する）。 ヴァテン、二宮 第 15 回：まとめ（リポート提出）、SWAP 分析を用いた実習の振り返り ヴァテン ※講義内容は変更される可能性があります。 ※実習は IB 認定校である聖隷クリストファー小学校および聖隷クリストファー大学附属クリストファー子ども園で実施します。					
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、グループワーク、実践や振り返りを主体的・積極的に進行する。					
授業内の ICT 活用	ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。					
評価方法	授業への取り組み：45％ 課題提出物（振り返りレポート、学習の証拠を含む）：55％					
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスをを行う。					
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、様々な資料を用いて原則とし					

修	て、40 分程度の事前・事後学習すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	モーテン・ヴァテン（5706 研究室） 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校・インターナショナルスクールでの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	プログラミング教育Ⅰ					
科目責任者	竹本 石樹					
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。					
科目概要	・小学生に必要な「プログラミング的思考」について学ぶ。 ・具体的には、ゲームづくりや生活に役立つものづくり等に取り組む中で、体験的に「プログラミング的思考」についての理解を深める。 ＊「プログラミング的思考」とは、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」(文部科学省「小学校プログラミング教育に関する手引き」より)					
到達目標	1. 小学生に「プログラミング的思考」を育成する必要性を理解できる。 2. 小学校における「プログラミング的思考」育成のための教材活用スキルを習得できる。 3. 小学校の授業場面における「プログラミング的思考」育成のためのポイントを習得できる。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス（現代社会とプログラミング、プログラミング的思考、基本アルゴリズム、小学校プログラミング教育の内容と導入の経緯など） 第2回：理科・MESH を活用したプログラミング授業の紹介 第3回：理科・MESH 教材研究① 第4回：理科・MESH 教材研究② 第5回：算数科・Scratch を活用したプログラミング授業の紹介 第6回：算数科・Scratch 教材研究① 第7回：算数科・Scratch 教材研究② 第8回：算数科・Scratch 教材研究③ 第9回：総合・AkaDako、プログラミングロボット Root を活用したプログラミング授業の紹介 第10回：総合・AkaDako 教材研究① 第11回：総合・AkaDako 教材研究② 第12回：総合・Root 教材研究① 第13回：「プログラミング的思考」を育成するための授業構想（検討①） 第14回：「プログラミング的思考」を育成するための授業構想（検討②） 第15回：「プログラミング的思考」を育成するための授業構想（発表）と振り返り					
アクティブラーニング	プロダクト制作の重視 グループによる模擬授業の検討と発表、リフレクション					
授業内の ICT 活用	ICT を利用して実際にプログラミングを体験する。					
評価方法	(1) 授業で課した課題(教材開発、指導案、プレゼンテーションなど)の評価…60% (2) 授業態度(学習記述、参加態度など) …40%					
課題に対するフィードバック	各回に記入した授業ワークシートをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

参考図書	各時間ごとに必要なプリントを配布する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は 40 分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	所属学部：国際教育学部 研究室：2714 研究室 時間：毎週金曜日 11 時から 14 時 上記以外でもメール (iwaki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際教育実習 I
科目責任者	Donald Patterson
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。 「国際教育実習Ⅱ」ではⅠの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。
到達目標	1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<担当教員名>太田雅子、Patterson、二宮貴之、モーテン・ヴァテン <授業内容・テーマ等> 実習事前指導（渡航前） 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる―実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習 1. 実習先（候補）： - インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト） 2. 実習内容 ①見学・観察実習 ②参加実習 3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 4. 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） ①自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ②個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ③実習報告会の準備をする ④実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表 ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	資料配布

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える 学修の目安時間は 40 分				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。 太田 雅子（5707 研究室） メール：masako-o@seirei.ac.jp パターソン・ドナルド（Donald Patterson）（5704 研究室） メール：patterson@seirei.ac.jp				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際教育実習Ⅱ
科目責任者	Donald Patterson
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。 「国際教育実習Ⅱ」ではⅠの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。
到達目標	1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<担当教員名>太田雅子、Patterson、二宮貴之、モーテン・ヴァテン <授業内容・テーマ等> 実習事前指導（渡航前） 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる―実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習 1. 実習先（候補）： インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト） 2. 実習内容 ①見学・観察実習 ②参加実習 3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 4. 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） ①自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ②個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ③実習報告会の準備をする ④実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表 ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	資料配布

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える 学修の目安時間は 40 分				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。 太田 雅子（5707 研究室） メール：masako-o@seirei.ac.jp パターソン・ドナルド（Donald Patterson）（5704 研究室） メール：patterson@seirei.ac.jp				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際福祉実習 I
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 専門 (SC) DP7 専門 (EC) DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習 I～IVは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習 I～IVは、期間を意味する。2 週間の場合は、I のみ履修。4 週間の場合は、I・II を履修。6 週間・8 週間の場合は I～III、I～IV の履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<科目担当者> 川向雅弘 <授業内容・テーマ等> ・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む) ・本実習 実習先： インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設) - 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ) ・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する
アクティブラ	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション

ーニング					
授業内の ICT 活用	ZOOM を使用して、実習施設とのやりとりを行う。				
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習施設からの評価（30%）、実習記録・実習レポート（30%）、 ・事前・事後学習の取り組み（30%） ・実習報告会での成果発表（10%） ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学習	事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。 各学修の目安は 40 分				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	川向 雅弘（2705 研究室） メール：masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際福祉実習Ⅱ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 専門 (SC) DP7 専門 (EC) DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2 週間の場合は、Ⅰのみ履修。4 週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6 週間・8 週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> ・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む) ・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設) - 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ) ・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	ZOOM を使用して、実習施設とのやりとりを行う。

評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習施設からの評価（30%）、実習記録・実習レポート（30%）、 ・事前・事後学習の取り組み（30%） ・実習報告会での成果発表（10%） ルーブリックは用いない。					
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。 各学修の目安は 40 分					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘（2705 研究室） メール：masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	インターンシップ I (SC)					
科目責任者	杉山 沙旺美					
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	各施設の機能ならびに専門職者の職務や対象となる子どもの生活を理解する。子どもとの関わりの中から、具体的な保育活動や保育実践を知る。					
到達目標	1. 見学・観察・参加実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2. 保育士・幼稚園教諭としての職業倫理を理解し、子どもに対する最善の利益への配慮を理解する。 3. 自分の課題を明確化し、実践を通して学ぼうとする。					
授業計画	<担当教員>杉山沙旺美・渡邊拓真 <授業内容> 【事前指導】 第1回：オリエンテーション 第2回：園・施設への依頼について 第3回：記録の視点・書き方 第4回：直前指導・手続き等 【実習中（インターンシップ）】 ・保育所・幼稚園・認定こども園において、インターンシップを10回以上実施する。 【事後指導】 第5回：インターンシップの振り返り①記録と学び 第6回：インターンシップの振り返り②自己評価					
アクティブラーニング	演習科目です。 また事前・事後指導では、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	・授業への取り組み 30% ・インターンシップの記録 30% ・振り返り／報告会への取り組み 40% ループブックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。					
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。インターンシップ中および事後指導では、記録、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を実施します（40分）。 【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします（40分）。					
オープンエデュケーション	なし					

の活用	
オフィスアワー	杉山 沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「保育士」「幼稚園教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	インターンシップⅡ（SC）					
科目責任者	杉山 沙旺美					
単位数他	2 単位（90 時間） 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	各施設の機能ならびに専門職者の職務や対象となる子どもの生活を理解する。子どもとの関わりの中から、具体的な保育活動や保育実践を知る。					
到達目標	1. 見学・観察・参加実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2. 保育士・幼稚園教諭としての職業倫理を理解し、子どもに対する最善の利益への配慮を理解する。 3. 自分の課題を明確化し、実践を通して学ぼうとする。					
授業計画	<担当教員> 杉山沙旺美・渡邊拓真 <授業内容> 【事前指導】 第1回：オリエンテーション 第2回：園・施設への依頼について 第3回：記録の視点・書き方 第4回：直前指導・手続き等 【実習中（インターンシップ）】 ・保育所・幼稚園・認定こども園において、インターンシップを10回以上実施する。 【事後指導】 第5回：インターンシップの振り返り①記録と学び 第6回：インターンシップの振り返り②自己評価					
アクティブラーニング	演習科目です。 また事前・事後指導では、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	・授業への取り組み 30% ・インターンシップの記録 30% ・振り返り／報告会への取り組み 40% ループブックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。					
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。インターンシップ中および事後指導では、記録、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を実施します（40分）。 【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします（40分）。					
オープンエデュケーション	なし					

の活用	
オフィスアワー	杉山 沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「保育士」「幼稚園教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅰ（SC）					
科目責任者	渡邊 拓真					
単位数他	2 単位（90 時間） 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習Ⅰは10日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には20日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。					
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。					
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン					
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20%（含むレポート。今年度はルーブリックを用いない）					
課題に対するフィードバック	その都度行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	1～5回の事前学習において、実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。5回目、事前学習で学んだことを復習し、まとめる。6回～10回の実習後指導では、体験したことを言語化し整理し、最終回にレポートにまとめる。合わせて40分程度					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワ	渡邊 拓真（5709 研究室） メール：takuma-w@seirei.ac.jp					

ー	時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅱ（SC）					
科目責任者	渡邊 拓真					
単位数他	2 単位（90 時間） 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習Ⅰは10日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には20日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。					
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。					
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン					
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20%（含むレポート。今年度はルーブリックを用いない）					
課題に対するフィードバック	その都度行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	1～5回の事前学習において、実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。5回目、事前学習で学んだことを復習し、まとめる。6回～10回の実習後指導では、体験したことを言語化し整理し、最終回にレポートにまとめる。合わせて40分程度					
オープンエデュケーションの活用	なし					

オフィスアワー	渡邊 拓真（5709 研究室） メール：takuma-w@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし